

「全鍍連」 2019年 3月号 理事長のよこがお

四国鍍金工業組合 理事長 岩崎秀雄

「南海トラフ巨大地震について」



中国四国九州地区のブロック会議では地区報告という形で毎回テーマを決めて各組合から発表を行い討議していますが、平成 29 年度は BCP 構築について討議しました。その時に発表した内容の一部をご紹介します。私が住んでいます高知県では、南海トラフ巨大地震についての警戒度が非常に高く、毎日のように新聞やニュースでこの言葉を見聞きしています。一方他県の人と話をしていると危機感には大きな温度差を感じます。南海トラフ地震は過去の歴史を振り返ってみると 100 年～150 年サイクルで発生しています。（次ページ左上図）東海・東南海・南海地震が 2 年位の間連続して起きるケースと 3 つの地震が同時におきるケースがありました。一番最近の地震は昭和 21 年に発生した昭和の南海地震ですが、これは歴史上非常に小規模な地震でした。それでも津波により高知市内は一面海水で町全体が覆われた。（次ページ右上写真上部が浸水時で下段が同じ場所の現在の姿）それ以降 70 年ほど経過しているが、予測では今後 30 年以内に発生する確率は 70～80%とされています。この確率を冷静に考えてみると非常に恐怖感を憶えます。場所によっては津波の最大高さが 3 4 mとされています。もう想像できるレベルではありません。それでも高知県ではなんとか人命だけは守らなければと海岸沿いに津波避難タワー（次ページ中段写真）を 100 基建設して備えています。また地図を 50mメッシュに区切って津波浸水マップが作成されて自分の住んでいるところは何メートル浸水するのか、しないのか一目で分かるようになっています。（次ページ左下 MAP）このようにまだまだ十分ではないですが、防災対策が進みつつあります。しかしながら他県の方と話をしているとそれほど深刻には考えていないように感じます。南海トラフ巨大地震の影響は東日本大震災よりも広い地域におよび、また直接太平洋に面していない中部・関西地方の都市部にも津波が襲ってくると予想されています。（次ページ右下地図）また過去 400 年の南海地震は東海・東南海地震と同時かまたは数時間から 2 年間位の時間差で発生しています。徳川幕府が始まった 2 年後 1605 年の慶長地震は 3 つの地震の同時発生、それから約 100 年後には富士山の大噴火があった 1707 年の宝永地震も 3 つが同時発生、そこから約 150 年後にはペリー黒船来航の翌年 1854 年の安政地震は東海・東南海地震の 32 時間後に発生しています。直近の昭和の南海地震は東南海地震の 2 年後の発生でした。このように南海トラフで発生する地震は 3 つ同時発生か東から順番に時間差で発生するかです。過去の記録では同時発生の方が地震規模は大きかったようですが、時間差発生になると先に東側で地震が発生した場合でも、次にいつ地震に襲われるのかという恐怖

の中で冷静に仕事を含めた日常生活が送れるのか大変不安です。この地域で生活している以上このことを十分認識して、職場にいる場合・自宅にいる場合・外出している場合等様々なケースを想定しながら対策を考えて行く必要があります。私共の会社でも数年前から BCP を作成し訓練を繰り返しながら中身の充実を図っています。事前の対策によって被害の大きさは変わってきますので、自分の生活圏がどのような対策が必要なのかを普段の日常生活の中で考えておくことが大切だと思います。災害は忘れた頃にやってくるといいますが、忘れずにいつも備えておくことが肝要です。

1600年以後の東海・東南海・南海・日向灘地震

(「地震調査研究推進本部 南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)について」をもとに作成)

